


げんでん
ふれあい **福井**

第23号

2005

AUTUMN

- 
- 第20回国民文化祭・ふくい2005
—深まる文化・感性の絆を演出—
 - 福井県海浜自然センター訪問
 - 永平寺
門前町に道元禅師の9基の歌碑

深まる文化

雨をも吹き飛ばす熱気にあふれたパレード、福井の歴史を紐解いた県民ミュージカル。10月22日に開幕した「第20回国民文化祭・ふくい2005」のオープニングイベントには、国内外の出演者約3千人が結集。世代、地域を超えて、交流の輪を結び、新たな文化と感性の絆を深めました。

オープニングパレード

福井市
フェニックス通り



皇太子陛下の前で、しなやかな舞を演じた組紐パフォーマンスのみなさん



福井工業大学附属福井中学校・高等学校マーチング部堂々の行進。

ふるさと
連福井らしさを表現



恐竜人形をかぶり、観客に手を振りながら進む恐竜ダンス隊の子どもたち。

伝統文化財もアピール

「リュウリュウ」ちゃんも参加



財団シンボル
マーク

財団法人げんでんふれあい福井財団は福井県の文化振興とふれあいとゆとりのある地域づくりに寄与することを目的にしています。本誌はこの主旨に従い県民のみなさんとの絆を大切にしたい広報誌を目指します。

CONTENTS/23

- 第20回国民文化祭ふくい2005
-深まる文化・感性の絆を演出- 2-5
- 国文祭・茶室おこし絵図展
協賛・人間国宝を迎え 狂言を楽しむ会 5
- 福井県海浜自然センター訪問 6, 7
- ふるさと福井 人物シリーズ
由利公正～生涯を貫く「至誠」の心～ 8, 9
- シリーズ14 福井の文学碑
永平寺門前町に遍元禅師9基の歌碑 10, 11
- 伝統芸能シリーズ 八田獅子舞 12
- 敦賀市立博物館誌上ギャラリー/17
百蓮蘭翠園 岸駒筆 13
- 情報ファイル
(げんでんふれあいコンサート2005) ほか 14, 15

FRONT COVER



福井県指定無形民俗文化財
八田獅子舞
(丹生郡越前町八田)

10月2日、越前町(宮崎地区)八田の秋祭りの行事として、総宮柳田神社の境内で、保存会の会員らの手によって、伝統の八田獅子舞が奉納されました。また、五穀豊穡・無病息災を祈願して、同地区の四つツの神社と全73戸を訪れ、悪魔払いの舞が行われました。奉納される舞は8曲ありますが、表紙の写真は、「三番舞の舞」で、獅子のほか、天狗、おかめ、ひつこの道化師が共演するにぎやかな舞です。獅子の曲がはじまると、天狗が獅子をかからかい、挑発。後半、獅子の機嫌をとり、天狗が白扇を振って獅子を遅らせ、最後に、獅子が扇子を取って、にらみをきかすところで舞いが終わります。



第20回

国民文化祭・ふくい2005



交響合唱詩「ふくい物語」に感動の拍手

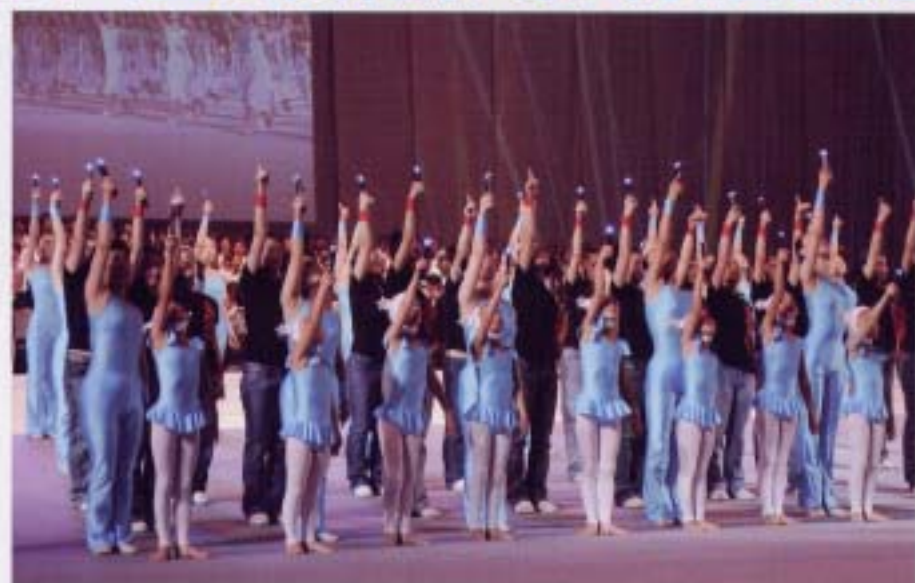
開会式

・ オープニング
フェスティバル

市ムい
前ドーム
越サンド
ふ

感性の絆

福井市のフェニックス通りで行われたオープニングパレード。出発と同時に降りだした雨の中、多彩な連が「集う遊び、紡ぐ縁」をテーマに、精いっぱい演技を披露しながらパレードを盛り上げました。



フィナーレ

オープニングフェスティバルで上演された交響合唱詩「ふくい物語」のフィナーレ。イメージソング「糸」を出演者全員で合唱、文化の祭典の始まりを告げました。



開会宣言

開会式典の幕開け。県内小・中学生出演者8人が元気な声でリレー形式で発言し、「第20回国民文化祭・ふくい2005」の開会を宣言しました。

開会式は、午後3時からサンドーム福井で、皇太子殿下をお迎えして開かれました。県内小・中学生出演者代表の8人による開会宣言の後、大野市出身の歌手・尾野裕子さんが国歌斉唱。続いて、国民文化祭実行委員会の平山郁夫会長、県実行委員会会長の西川一誠知事が主催者として挨拶。



物語第1幕「胎動」の中から—古代から受け継がれた福井の歴史と豊かな自然を表現した「お水送りの人々」と輝く星のこどもたちの演技

この後、過渡時代から現代までの本邦の歩みをモチーフにして、構成された交響合唱詩「ふくい物語」が県内の中・高校生から成るコーラス隊やオーケストラ、バレエ団、伝統芸能グループらの手によって上演され、会場から感動の拍手が送られ、大会幕開けに花を添えました。



「ふるさと道」の先頭パレード・パトントワリン



車の上で騎山左義長ばやしを披露から進む同保存会のみなさん



中国江南糸竹管楽器公演団が環日本海諸国の音楽隊として参加、中国民族音楽を披露し、国際文化交流を深めました。

北前船をモチーフに



福井の交易の隆盛と文化の交流に大きな役割を果たした「北前船」をモチーフに、若人の剣舞を披露する高校生ら。

現代福井の元気を披露



和太鼓の大迫力の演奏に乗り、心地よい新旧の文化の交錯を印象的に描き出した仁愛女子高校ダンス部員らのジャズダンス

閉会式・ファイナルレ

市ニールい
井モーク
福ハホふ

織りなす文化と感動、次代へ

11月3日、福井県立音楽堂で閉会式・グランドファイナルが行われ、格調高い演奏や合唱で文化の祭典を通して生まれた強い絆と感動をアピールして、次代に繋ぐ幕を閉じました。

オープニングは宮本とも子・フェリス女学院大学教授のバイブオルガン独奏で幕が開き、「ふくいのコラボレーション

演奏」では、バイブオルガンと県内で生産されているハーブ、マリンパの三重奏で、オリジナル曲「響きの糸」が披露され、会場は幻想的な雰囲気になりました。

続いて、国民文化祭を彩った67事業の代表者が入場。「夢」「創」…、事業への思いを一字に込めた色紙を掲げて入場。

主催者あいさつの後、県内の子どもたち7人が国民文化祭で培われた成果を未来へとつなぐメッセージを、リレー形式で発表しました。この後、国民文化祭旗が西川知事から次の開催地となる山口県に引き継がれ、最後は、観客と出演者合わせて約15

00人がイメージソング「糸」を合唱。13日間の文化の祭典を締めくくりました。

「福井の未来」をリレーメッセージ



協国
文
賛祭

茶室おこし絵図展

10/19
~23

国宝級名席50点 展示解説

福井



「国民文化祭ふくい2005」に協賛して開かれた「茶室おこし絵図展」(福井新聞社プレス2)

日本の伝統的な茶室を立体的な絵図で紹介する「茶室おこし絵図展」(福井新聞社主催、福井工業大学、げんでんふれあい福井財団共催)が10月19日から23日まで開かれました。また、この催しものは、「国民文化祭・ふくい2005」に協賛する形で開催されました。「おこし絵図」は、茶室のイメージを表現するため江戸時代に盛んに作

られた建築図。平面図を描いた台紙の上に、壁面の図を貼り付け組み立てる立体的な絵図で、折り畳めば一枚の紙のようになります。展示されたのは、国宝、重要文化財級の茶室のおこし絵図50点。複製された絵図と一緒に現存する茶室の写真とコンピュータで作成した図が添えてあり、一点一点に解説文が付けられ、訪れた人達は、伝統文化の粋を興味深く見入っていました。10月20日には、茶室研究の第一人者で、福井工大名誉教授・中村昌生さんが、「茶匠の創意工夫」と題して、同社・風の森ホールで記念講演会が開かれました。中村教授は、千利休や古田織部らの茶人とおこし絵図との密接な関係や日本文化のゆかしさなどを解説され、会場を埋めた聴衆を魅了しました。



国民文化祭・ふくい2005
開会式・グランドフィナーレ



第20回国民文化祭・ふくい2005の「開会式・グランドフィナーレ」、出演者全員がイメージソング「糸」を台無し、13日間の感動に幕を下ろしました。

「響きの糸」会場包む



『響きの糸』～福井のためのファンタジア～をハープ、マリンバ、パイプオルガンの三重奏で会場を包んだコラボレーション演奏

国民文化祭旗

次回開催地山口県へ



次回開催の山口県の綿屋滋二副知事(右)に国民文化祭旗を手渡す西川一誠福井県知事

第8回「狂言を楽しむ会」

敦賀

11/4



「寝音曲」で円熟した芸を演ずる茂山千作師(左)

財団では、「第20回国民文化祭・ふくい2005」の協賛事業として、今年で8回目を迎えた「狂言を楽しむ会」(日本原電協賛)を11月4日、敦賀市プラザ萬象の能楽堂で開きました。昼の部では、敦賀市の中学生(粟野、角鹿、西浦、東浦中の4校)330名が古典芸能の体験学習として

人間国宝

茂山千作師・円熟の芸

狂言を鑑賞しました。上演曲目は、「神山伏」と小学校教科書にも登場する有名な「附子」の2曲で、参加した中学生は、生の狂言に接し、「初めは、難しいと思ったが、つい笑いたくなる喜劇に感銘しました」と、狂言の魅力を味わっていました。

夜の部では、会場に約400人の観客が集まり、狂言師松本薫さんから、狂言の歴史などの解説が行われた後、「蝸牛」「寝音曲」「鎌屋」の3曲が演ぜられました。

「寝音曲」では、人間国宝の茂山千作師が太郎冠者で登場。上手な謡を謡うのに、酒や膝枕で寝たままでないと声が出ないなどと主人と太郎冠者との主従関係をコメディカルな様子などで演出し、千作師の円熟した演技に大きな拍手が送られていました。



国民文化祭の成果を未来へとつなぐメッセージを、リレー形式で読み上げた子供たち

福井県海浜自然センター訪問

福井県海浜自然センターは、若狭湾国定公園内の三方海中公園地域に、通称、若狭三方マリンパークとして、平成11年7月「海の日」に開設され、「海」への総合インフォメーションセンターとして人気を集めています。

お盆過ぎ、初めて、同所を訪ね、所長室で、島田光博所長さんから三方海中公園の概要やセンターの役割などを聞き、自然とのふれあい活動の拠点となっていることを身近に感じました。

海浜自然センターでは、福井県の豊かな海の自然を体験学習できるほか、情報センターとしての機能を備え、同所の設備や行事を利用していただくことを通して、自然保護意識の高揚を図っています。



若狭の海にいる魚にえさを与えることができる「ふれあい水槽」



福井県海浜自然センター正面外観
若狭町世久見(食見海岸)

エントランスふれあい水槽

所長さんの案内で館内施設を見学することができました。

正面玄関から入ると、エントランスホールの中央に、小型水族館ともいえる容量約8トンの「ふれあい水槽」が設けら

(次頁へ)



同センターと施設を取り巻く自然体験地域(通称・若狭三方マリンパーク)は、雄大な若狭湾国定公園の中にあり、リアス式の海岸が生み出す美しい風景に恵まれています。

昭和46年(1971)1月、島辺島を中心に、常神半島と黒崎半島に囲まれた、世久見湾には、特に海中生物が豊富で、海中景観もすばらしい4箇所30.2ヘクタールが三方海中公園に指定されました。

この周辺の海岸は、リアス式海岸で大小様々な岬、島、岩礁が発達し、複雑な海底地形となっています。また、日本海を北上する対馬暖流の影響を受けて温暖で、入江は波がおだやかで、流れこむ陸水が少なく海中はとても澄んでおり、多くの海中生物を見ることができます。中でも暖海性の「オウギフトヤギ」と寒海性の「ムツサンゴ」が同一箇所に生息。特に「ムツサンゴ」は分布の南限で、学術上も貴重なものです。

楽しもう海・自然とのふれあい

フィールドは三方海中公園



タッチプールで生物を観察

タッチプールには、マリンパーク周辺の磯だまりをリアルに再現、そこに生息している魚などの生物に触れる水槽が設置され、手にふれて観察できるなど子供たちの人気のプールとなっています。
2階展示コーナーでの人気設備では、「リ



磯だまりに生息している生物を手にふれて観察できるタッチプール

れ、マダイやイシダイなど若狭の海にいる多くの魚が泳いでいます。水槽の横手から、エサを与えることもでき、初めて訪れた子供たちは、驚きの目で見守っていました。

周囲のコーナーでは、20インチのモニター4台により気象や海中の映像など海の情報を提供しています。また、6台の小型水槽にはミノカサゴやイソギンチャク、小魚など海の身近な小動物を展示し、興味を集めていました。会議室の前の空間には、昔、若狭地方で使用された和船「さんば」が展示され、船の中には、食見湾で拾った漂流物が展示されていました。

2階展示室への28の階段には、若狭の海の生物図鑑ともいえる魚のイラストがプリントされ、つい、足をとめてしまっています。

若狭の自然・くらしに焦点

「時間と空間の旅」コーナーでは、現在の若狭を地球規模の時間と空間の中に位置づけ、映像展示装置が設けられています。



海中に設置された水中カメラで海の様子を見ることが出来るリアルタイムスコープ

アルタイムスコープ」(スコープ、32インチワイドモニター)があります。これは、展示室から遠隔操作が可能な固定型海中カメラによって、若狭の海中の様子をリアルタイムで観察できます。



定置網の構造がわかる模型など若狭のくらしや歴史を学べるコーナー

海に感動する体験講座に人気

また、「若狭の四季」の特色をスライドプロジェクターなどで投影するほか、4面のマルチメディアモニターで同時上映することで見学者を引きつけています。

「若狭の自然」コーナーでは、若狭の海の特異な海流の変化による南北の生き物、三方五湖など5つのテーマを解説。

「若狭のくらし」のコーナーでは、鳥浜貝塚、奈良時代の製塩、鯖街道の歴史、フグの養殖や定置網漁業の変遷などを模型などを使い説明しています。

「若狭の海の海中散歩」コーナーでは、若

センターでは、展示事業とあわせて、自然とのふれあいを通じ、自然保護思想の普及啓発を図るため、自然体験講座などで各種教室の開催事業にも力を入れています。

夏場、食見海岸における磯の生き物を観察する「親子ふれあい講座」や海中公園の海を体験する「スノーケリング体験講座」を開設。これらの講座では、親子で参加するなど海との感動やその大切さを学び、人気講座となっています。



自然体験講座で海藻おしぼりに取り組む子供たち

狭の海の代表的な海中景観である岩礁地帯、潮間帯、浅い砂地、深海、プランクトンの5種類の環境を原寸大のジオラマ造形で再現しています。

最後に、マリンホールで「若狭の海」を堪能しました。この施設には、90座席が設けられ、立体ハイビジョン映像のシアターで、三方海中公園の海中の様子やそこに生息する生物を迫力させる映像で体験することができ、観客から驚きと感動で大きな拍手が湧いていました。

また、秋手には、水鳥などを観察する「三方五湖自然講座」を開催、また、スノーケリング指導者などを養成する指導者



スノーケリング体験講座に参加した子供たち

養成講座にも力を入れ、啓発活動の輪を広げています。一方、青少年の健全育成の学習の場としての役割を重視し、学校等からの要請による出前講座や各団体の要望に応じて行う自然観察等の講座を実施し、平成16年度では、参加者が延2100人を越える実績をあげています。

由利公正

生涯を貫く「至誠」の心

(下)

文／三上一夫氏

銀座を煉瓦街に

由利は明治四年（一八七二）七月の薩藩置県後の同年二十三日、東京府知事（四代）に任用されたが、翌五年二月二十六日、和田倉門内兵部省から出火して、銀座・京橋さらに築地にまで広がり、約五千戸、二十万坪におよぶ大火となった。この際由利の公舎（京橋木挽町）も焼失した。

「火事と隣は江戸の藩」のことばとおり、江戸では毎年のように大火事が起ったが、かれは近代日本の首都としては、思い切った都市改造が必要だと考えた。

そこで街路幅を精いっぱい広くし、不燃性の煉瓦建築にするなど大がかりな不燃性都市化計画を提議した。そして当時のニュー

ヨーク・ワシントン・ロンドンなどの国際都市の目抜き通り並みに、銀座大通りを二五間（四五・メートル）にすべきことを強く主張したが、大蔵省側の反対でついに一五間（二七・メートル）に決められたという。

当時の大蔵省の実力者、大蔵大輔井上馨とは、煉瓦街建設の点で由利と同意見でも、建築方式のうえで異なっていたが、いよいよ四年三月、煉瓦街建設の府令が公布された。こうして東京府を事業主とし、大蔵省を監督官庁とする大々的な工事がはじめられた。

ところが由利は同年五月二日、全權大使大久保利通の随行を命ぜられ、同月十五日渡米することになった。翌六月サンフランシスコで、ニューヨークに向かう大久保と別れたのち、八月英国に渡った。

その後西欧諸国をめぐる、翌六年一月

PROFILE

三上 一夫氏

1921年朝鮮京城府生まれ。京城帝国大学史学科卒業。福井県教育研究所長などを経て、現在福井工業大学名誉教授。1989年に福井県文化賞、2004年に福井新聞文化賞を受賞。主要著書に「公共社会論の研究―越前藩幕末維新史分析」、『福井小松の新政治社会論』、最近では『幕末維新と松平春嶽』など多数。

再びロンドンに戻った。すると府知事兼免の辞令（五年七月十九日付）がとどいていた。そのためかれは急いで帰国の途につき、二月十日帰府した。

これは明らかに、井上馨らの策動によるもので、由利に銀座煉瓦街建設から一切手を引かせるためであったとみられる。

明治政権が藩閥化するなかで、閣外にあった由利の立場を不利にしたのはいうまでもない。しかし「銀座」が兎事に再生すると、銀座二丁目の人びとは、由利を顕彰し、「煉瓦銀座の魂」（ホテル西洋前）が建てられた。

「民撰議院設立」 建白への参加

明治四年の薩藩置県は、いよいよ中央集権専制主義的な国家体制を成立させる。中央の政治機構は根本的に改められ、太政官三院（正院・左院・右院）をたて、その下に八省が設けられた。左院は集議院の後身に当たり、一応立法府の形態をとってはいるが、実際は正院のもとにある諮問機関にすぎなくなる。

しかも政府内で、薩摩・長州・土佐・肥前出身の官僚が独占的となり、なかでも薩・長が首座を争うという具合に、ますます藩閥専制化の傾向を強めたのである。「開」の政治理念は、「私欲」につながるものであり、かねて堀井藩などの公議政体路線が厳しく戒められたところであった。このことは、明治七年（一八七四）一月、同一〇年代に

全国的に高揚する自由民権運動の口火を切る「民撰議院設立の建白」を行わせる結果ともなる。

実は「建白書」の作成に当たり、板垣退助・後藤象二郎・副島権臣・江藤新平ら八名の連署により、四月十七日左院に提出するが、この際イギリスの議会制度を調査し



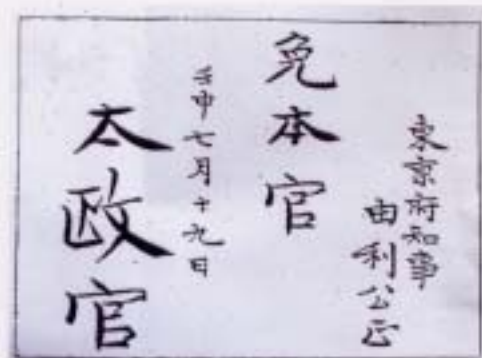
民撰議院設立建白（『日新真事誌』所収）

て開国した小室・古沢とともに由利が加わることに難目したい。しかも由利は、愛国公党の「同志集會の場」として、東京銀座三丁目自に「幸福安全社」という俱樂部を設け、これを教習所（現、堀井県）人跡田舎に管理させ、同県の小吏原幹ら数名を同社に誘ったという熱の入れよきであった。

そこで「建白書」ではまず、「臣等伏して方今政権の帰する所を察するに、上帝室に在らず、下人民に在らず、而も独り有司に帰す」と、もっぱら藩閥専制に対する非難・攻撃が中心となる。そして「天下の公議」を伸張し、「幸福安全」を保護するためには、ぜひ民撰議院を創設すべきであると訴えたのである。



明治初期の銀座煉瓦街風景



東京府知事の免官辞令

「こうした公議公論主義の政治で、五箇条の御誓文」の由利草案第五条の趣旨とまったく符合するものであり、由利の立場からは、維新当初に画策した政治理念が大幅にゆがめられたことに対して、厳しい批判と反発を試みたものとみてよい。

事実がれば、「建白書」に署名した当時を回想して、「私は御誓文の当初から会議といふ事に専ら意を注いで居たから、西洋へ行つた時も、村会・県会・国会と云ふ事の上にして、余程心を用いて調べて来て居て、是非とも議を起して、所謂憲法を御定め成てお通りにならねば、十分の処まで成就しないと云ふ者であった（後略）」（由利公正伝）と力説したほどである。

初代福井市長へのアドバイス

明治二十一年（一八八八）四月の市制・町村制の公布にともない、翌二十二年二月に、福井が県下で唯一の市として発足し、初代の市長に旧福井藩士の鈴木準道が選任された。同年八月十八日に、福井市役所の開庁式が盛大に挙行されたが、その際、由利が鈴木市長に対して「祝詞」をおくった。そのなかでかれは、「公共ノ道ニヨリテ公共ノ責ニ任スルモノハ、自ラ公共ノ心アリ、（後略）」とし、要は「公共ノ道」に反した政治をすれば、地域住民多数の怒みをかうのは必定だと厳しく戒めたのである。

通常「祝詞」といえば、相手の人物をほめたたえ、通り一遍の祝意を示すのが普通であるが、由利の場合は、市政の公共性を真剣に訴えることに終始している。こうした政治理念こそ、かれが幕末の福井藩政にかかわったときからの持論であり、とりもなおさず、小楠の「大いに言論を開き天下と公共の政をなせ」（「国是七条」）の趣旨をもふまえた「公議公論」尊重の福井藩論でもあったわけである。

ところが、由利と鈴木とは幕末維新期には、松平春嶽・茂昭のもとで、ともにさまざまな政治活動を行った類しい関係でもあった。

ちなみに鈴木準道（天保十二―大正十年（一八四一―一九二一））は、福井藩士鈴木拾左衛門家の出身で、藩校明道館に学び万延元年（一八六〇）江戸詰となり、その後幕末の大詰めにかけて、京都や江戸にしばしば往来し、春嶽・茂昭の謀臣として活躍した。

維新後は、福井藩民政局大副・岐阜県廳松平長などを歴任したが、明治九年（一八七六）退官、のち旧藩主松平家の家扶となり、東京邸で家政の処理に当たっていた。

ところが、福井市政の発足に際し、はからずも市長に選任されたのである。

就任期間の二十二年五月二日より退任の二十八年四月二十七日までの約六年間、かれが丹念に記した「市務日誌」を福井市立郷土歴史博物館が所蔵する。それによると、鈴木市長は自治行政の基礎づくり懸命につとめたことがわかる。

その「日誌」（明治二十二年八月十八日の条）のなかで、鈴木は前述の市役所開庁式で「式辞」を述べたが、そのなかで、果たして市長の重責に耐えられるかを危惧するが、ぜひとも市吏員の協力を得て、民意をしっかりとらひかって重責を全うしたい、と力説している。

たしかに鈴木市長は、さきの由利の「祝詞」の意とするとともに、はっきりと応えたものといえる。鈴木にはまったく未経験の「地方自治」行政であるが、その基本理念は、まさしく「由利哲学」をふまえるだけに、はなはだ感銘が深いわけである。



由利公正肖像（59歳）

「至誠」の心構え

由利は明治四十三年（一九〇九）四月十四日死去するが、同月に述べた「処世談」には、八十一歳の長寿を全うしたかれの赤裸々な生活信条がみられる。ものごとに処する場合は、「至誠」こそがもっとも大事な心構えでなければならぬと強調するが、これがはからずも由利の辞世の句ともなったのである。

ところがその前年、四十一年十月に発布された「戊申詔書」に対して、由利は「詔書御読所感」の記録を残している。それによると、「詔書」は日露戦争後の国民の「風紀の弛緩」をいましめ「上天下心を一にし忠実業に報し」と力説するが、由利はかつて維新政権下で最初に起草した「五箇条の御誓文」の趣旨とまったく共通するものである。

「御誓文」発布から四十一年を経て、改めて「詔書」を出したのは、その間「政治の届に当たるもの」が、「御誓文」をしっぴかり実践しなかつた証拠であるときめつけられる。この点、「御誓文」の国是が、明治維新後の近代化路線のうえで、満足に生かされず、むしろゆがめられたことに対する痛烈な批判を込めたものであった。もともとかれは、自分の徳念や信条をあくまで貫きつとめる性格の持ち主で、またその旺盛な実践力には驚き入るばかりである。いかにすぐれた論策でも、実践に移さなければ「画餅」に終わるわけである。

幕末の福井藩が、みごと「雄藩」に推進できたのも、松平春嶽の主導のもとで、とりわけ横井小楠の「民富論」的富国策の理論が、由利の強じんな実践力で具体化されたことによるものといえよう。

実は、さきの太平洋戦争の敗戦直後に成立した東久通憲内閣は、昭和二十年八月二十八日、総理の最初の記者会見で、「一億総懺悔」を呼びかけるとともに、「五箇条の御誓文」を引き合いに出して「御誓文」のめざす公議公論主義・民生安定・国際平和友好を真剣に訴えた。

この点まさしく、由利の真の企図するところがはっきり蘇生したのであると見てとることができる。二十一世紀に生きながら、先行きの開き感のきわめて強い現代社会で、われわれがこそ実践すべき重要課題であることが改めて痛感される。（おわり）



由利公正祝詞（福井市立郷土歴史博物館所蔵）

シリーズ14 福井の文学碑



ここから永平寺の浄域となる正門。門柱に刻まれていることば(右)「杓底一残水」、(左)「汲流千偉人」



日本曹洞第一道場
吉祥山永平寺を刻した歌碑

永平寺 門前町 に道元禅師の九基の歌碑



曹洞宗大本山永平寺標柱

永平寺は曹洞宗の大本山で、今から約760年前、日本曹洞宗の高祖道元禅師が開かれたお寺です。山号は吉祥山、日本曹洞第一道場として、現在まで堂々として、その法脈を伝えてきています。

同寺門前町の約400メートルの参道の傍らには、禅師が詠まれた和歌を自然石に刻んだ歌碑、9基が建てられています。

これらの歌碑は、永平寺町観光業協同組合が、同寺を訪れる参拝客が道元禅師の心にふれていただき、門前町商店街の活性化につなげようと、平成7年、建立したもので文化の道となっています。

門前町を散策しながら、歌碑を訪ねてみました。

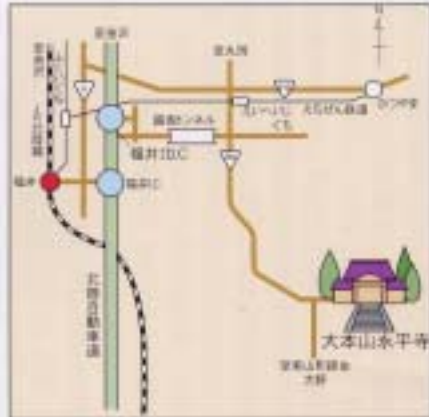
道元禅師が、折にふれ余暇をみて詠まれた和歌は、「傘松道歌」の名で広く読まれています。その名の示すように、仏の教えを詠み、句外にそのころを偲ぶ道歌そのものが多いといわれています。一方、禅師の和歌には幼時、京の名門公家の家庭で育ち、その生活環境の影響を受けたと思われる歌が多く、文学作品としても、すばらしく、強いて道歌とせず、率直に詠んだ歌ごろを汲みとることが、禅師に、より忠実ではないかと解説されています。(大山興隆著、道元禅師和歌集「草の葉」より。また、以下掲載の9首の歌意は、同書の解説を参考にしました。)



春ば花 夏ほととぎす
秋ば月 冬雪さえず
すずしかりけり

永平寺の浄域・参道となる正門の右側に「日本曹洞第一道場 吉祥山永平寺」と刻まれた石碑があります。その石碑の下部に前記の句が刻まれています。

春は百花ひらき、野山に美しい彩を添えてくれます。夏がくれば、ほととぎす(ほととぎす)が炎天下に一服の清涼をもたらしてくれ。秋空はあくまで高く、月の色はひと



り美しい。冬は雪をみて寒さひとしお深く、すべてのものを覆い、しみ透るばかりのきよらかさである。

この歌は、文豪川端康成がノーベル文学賞の受賞記念講演に、わが心の歌として引用し、その講演の冒頭を飾った名句です。



舟ね入る みやまの奥の
里なれば ほととぎすみなれし
みやまなかりけり

自分の落ち着く先をあちこち探し求め、山深く分け入ってみたが、そこにあった人里こそは、以前からなれ親しんだ我が家でした。修行であちこちと歩いてきたが、その根本は自分の身近に存在していました。



永平寺門前の商店街と参道

毎日の生活を関かに振り返ってみよう。それは実に空しい日おくりの、繰り返しといつてよい。成仏(人間完成)への道を歩むことは、人と生まれたもののつとめである。ところが、どうゆうものが自分の欲望のみに振り回されて、その使命を怠り、本当の生き方をすすんで進むことをしないでいます。人の歩むべき本道の道を実践することの難しさ。そして一日一日の尊さを詠ったもの。



いたづらに過ぎてす月日は
多けれど 道をもとむる
時ぞすくなき

3



守るとも思わずながら
小山田のいたづらならぬ
かかしなりけり

5

見守っているとも思えないが、山田の案山子は無用のものでない。ただひとり黙々とその日のつとめを楽しんでいます。でもただわけもなく立っているのではない。私たちの平凡な日常とも思えるこの「一日の生活」は、それこそ大切な一日なのです。



4

この経の心を得れば
世の中のうりかう声も
法をとくかな

出家して仏道修行に励む身でも、また、在家のまま商売に精を出すものでも、この法華経を読み、そのころのわかるものは、日常生活の中にまことの教えのあることを覚えるものです。



6

濁りなき心の水に
すむ月ば 波もくだけで
光とすなる

月ほどのような処へも、あまねくその光をとどけるものです。しかも、一点のくもりもない水の如く透明な心のうちにある月の光は、それこそ美しく光り輝くものです。



7

冬草も見えぬ雪野の
しらさぎはおのが安に
身をかくしけり

一面に雪が降りつもって、冬の草のすがたも見えない中にただ一羽の白鷺が立っています。あたりの雪の白さに同化し、自分の姿の中に自分自身をかくしてしまっているようです。礼拝のころはこれを敬うところと、自分のこだわりをなげすて、相手の中に飛び込むことが大切。相手と一つになった時、始めて心から礼拝したといえます。



8

朝日まつ草葉の露の
ほどなきに いそぎな
立らそ野辺の秋風

草の葉に宿る朝露が、日の出を待ち望み、もう間もなく日ざしを見るときに、どうぞ、野原にわたる秋の風よ、吹かないで欲しい。吹いてはひとたまりもない露のいのちであるから待って欲しい。



9

水鳥の行くも帰るも
跡たえてされども
路はわすれざりけり

水鳥が静かに水面を泳いでいる。あちらへゆくかと思えばこちらの方へ後戻りしている。自由でなんのくつたきもなく、その泳ぐあとかたもみられない。しかし水鳥はその足で踏えず水をかき、鰾を息らす自分の本分を忘れずに、その向かうところを知っています。

八田獅子舞

越前町

福井県の無形民俗文化財に指定されている八田獅子舞が10月2日、丹生郡越前町(宮崎地区)八田に鎮座する越前八田神社の秋祭りに、早朝、同保存会の会員らの手によって奉納されました。

八田の獅子舞の起源は、記録として残されておらず明らかではありませんが、約280余年の伝統をもつといわれています。由来は、当地において生まれたものでなく、他から伝わったもので、当地で舞い続け、当地に根づき、馴染んだ舞ができて今日に伝えられています。

また、伝説によると、昔、八田の村に、悪病が蔓延し、困り果てた村人達は、氏神様に悪病退散の願いを掛けたところ「獅子頭を造って、家々を舞い歩け」との

お告げがありました。村人達はこれのお告げのとおり実現しましたところ、悪病は治り、元の平和な村に戻ったという言い伝えがあります。

子供獅子舞会を結成

獅子舞は、以前、青年団によって伝承されてきましたが、近時、地区の青年団員が少なくなり、昭和59年(1984)、青年を主体とした保存会をつくり現在に至っています。また、昭和62年(1987)には、子供獅子舞会を結成。現在、大人25名、子供(小学生)316名・男女全員10名で、伝統の獅子舞を継承し、保存に努めています。

勇壮・優雅、愛敬振りまく六曲の舞

総じて、勇壮な中にも、愛敬があり、柔らかな身のこなしや獅子に乗ったリズム感のある優雅な舞が披露されました。奉納舞を終えると、御神酒をいただいた後、2組に分れて、村内の4つの神社と刀戸の家庭を訪れ、御歳いをして回ります。



天狗、ひょっとこらが共演、獅子を挑発し、にぎやかな舞を展開する「三番叟の舞」



笛、太鼓のはやしに乗って「悪魔払いの舞」を演じる子供獅子舞



うたいと太鼓に合わせ、剣を回転させながら踊る「剣の舞」

交通案内



子供獅子舞は、8時、子供達が総宮に集まり、礼拝の後、境内で、悪魔払い、本獅子、あがきの舞の3曲を奉納し、地区8軒の家庭を訪れ、ふるさとの祭りに、伝統の芸能を披露し、区民の歓迎をうけていました。



獅子が突れるほど動作といわれる勇壮な「あがきの舞」

「にらみの舞」「あがきの舞」は團の中に5人が入り綱幕を大きく広げて舞います。「剣の舞」は獅子頭をかぶった舞手が、太鼓とうたいに合わせて、前半は邪気を払う動作をし、後半では剣を軽やかに回転させ優雅に踊ります。

「三番叟の舞」では、最初に道化役の天狗、おかめ、ひょっとこが観客にいたずらをくりかえします。はやしが始まると、天狗が獅子をからかって怒らせ、後半では、天狗が獅子に扇子を与えてなだめるといふストーリーで、観客を楽しませてくれます。

「あがきの舞」は必ず最後に演じることでなっており、前半は静の動き、後半は笛、太鼓も大きな音となり、獅子が荒れる舞となり、6曲の中で一番短い舞いですが、もっとも勇壮な舞といえます。

敦賀市立博物館
誌上ギャラリー / 17

敦賀市立博物館では郷土にゆかりのある作家や師弟関係などつながる近世・近代絵画を系統的に収集しています。

白蓮翡翠図 一幅 岸駒 筆



- 絹本着色
- 縦一三三・七 横八五・五 cm
- 江戸中期
- 落款 越前介岸駒
- 印章「同功館」朱文長方印

解説

泥沼に育ちながらも真白な花を咲かせる蓮は、仏教では極楽浄土に咲く清浄の花として昔から描かれてきました。本図では、四方八方へと葉を広げる美しい白蓮が画面いっぱいに描かれています。

なかでも、蓮の葉は彩色の微妙な濃淡により塗り分けられることで、その光輝性や写実性がよく表されています。また葉の表裏に変化をつけて着彩を施すことで、青々とした部分や枯葉となつて朽ちている部分まで表現されており、単一のモチーフでありながら変化がつけられているのが分かります。

ところで、蓮の花は3度開閉した後に必ず散る性質を持つことで知られていますが、本図の両面上部にもわずかな寿命を示すかのこどく、花びらが風にそよいでいます。他にも、中央の蓮葉の下側には、「隠し絵」のように翡翠が止まっているのが窺えます。翡翠は、その美しい姿からは想像できないほどの俊敏さを持ちますが、本図では隠れるようにして佇む一瞬の姿が、躍動感あふれる蓮葉の描写と対照的に描かれ、静と動の対比が見事に表現されており、本図の見所のひとつとなっています。

筆者の岸駒は、寛延2年(1749)に出生し、通説では金沢、また一説には高岡の出身と伝えられています。青年期から、貧困の中で日本画以外に中国画や西洋画など様々なジャンルの絵をほぼ独学で学びました。その後京に上り、岸駒を創設し、天明4年には有栖川宮家より雅楽助を賜りました。また、大名をはじめ公家や有力社寺など幅広い層の注文に応じて絵を制作し、文化5年には越前介、天保7年には越前守に叙せられました。天保9年(1838)90歳で没しています。

最後に、岸駒は敦賀の豪商の注文により絵を揮毫したことが、記録により明らかとなっています。これは、当時岸駒のスポンサーであった木津成助が敦賀の出身であったことから、成助を介して、注文に応じたものと思われまます。

(敦賀市立博物館 森田恵理子)

第50回
記念

沈吟

書道展

9/24
10/2

公募作品に財団賞を贈呈

武生市
小浜市



公募作品に財団賞を贈る表彰式
—武生市民ホール

第50回沈心書道展(同会主催、代表土田帆山、当財団協賛)が9月24日から27日まで武生市民ホールで、同月28日から10月2日まで小浜市、県立若狭図書館学習センターで開催されました。

会場には、書家の手島石郷さんから新曲「居酒屋「敦賀」」を出した演歌歌手、香西かおりさんに、敦賀をPRしてもらおうと、「つるが大使」を委嘱。河津敦賀市長から委嘱状をうけた香西かおりさんは、「大使として緊張と責任を感じます。敦賀の人運の出会いを大切に、敦賀をPRしたい」と抱負を語りながら、夏の夕暮れの風情漂う舞台で、「はぐれ草」やヒット曲「黒書坂」などを歌い上げ、集まった来場者約500人を魅了しました。

最後に、新曲「居酒屋「敦賀」」を披露。「一外は雨です居酒屋「敦賀」」今夜は茶碗蒸し誰も来ない「居酒屋「敦賀」」の隠し味は力メメ/最後に見つけたとまり木に「敦賀の名前が登場する演歌を熱唱し、来場者から絶賛の拍手を浴びました。

の賛助作品、同会所属会員の作品81点をはじめ、公募部門・一般、小・中・高校生の部127点の作品が展示されました。いづれの作品も、自由な発想で、楷書、草書、行書と特色ある書風で描いた作品が目立ち、多くの愛好者が親子で訪れ、出品作品に見とれていました。

展覧会初日には、記念大賞をはじめ、公募優秀作品の表彰式が行われ、財団では、応募作品の中から8名の方に「げんでんふれあい揮財団賞」を贈りました。

「受賞のみなさん」マ一般・上調きみ子(武生市)、河野秀風(鯖江市)マ高校・瀧陵(若狭高)、浜田文哉(若狭東高)マ中学校・大塚麻希(万葉中2年)マ小学校・広部まり子(小浜小6年)、岡本亜也(小浜小6年)、岩坂知佳(北日野小3年) (敬称略)

きらめきフェスティバルで、ミニライブ 7/22

香西かおりさん敦賀をPR 敦賀市



新曲「居酒屋「敦賀」」を披露した香西かおりさん

つるが・港の祭典「きらめきフェスティバル2005」(同実行委主催、当財団協賛)の開会式とあわせて、歌手・香西かおりミニライブが7月22日夜、敦賀港金ヶ崎緑地・特設ステージで開かれました。

最後に、新曲「居酒屋「敦賀」」を披露。「一外は雨です居酒屋「敦賀」」今夜は茶碗蒸し誰も来ない「居酒屋「敦賀」」の隠し味は力メメ/最後に見つけたとまり木に「敦賀の名前が登場する演歌を熱唱し、来場者から絶賛の拍手を浴びました。

げんでんふれあいコンサート 2005

10/7



河村隆一さん、豊かな歌唱力で会場を魅了—敦賀市民文化センター

財団では、げんでんふれあいコンサート「河村隆一Tour 2005『もっ二人の自分』」(日本原電協賛)を10月7日、敦賀市民文化センターで開催しました。

会場には約1100余人の熱烈なファンが詰めかけ、河村さんの甘い歌声と、初めて敦賀を訪れた好感の

河村隆一さん甘い歌声で熱唱

敦賀市

挨拶に、黄色い声が沸き起り、熱気に満ちたコンサートになりました。

公演はピアノ、バイオリン、ギターなど6人で構成したバンドの演奏で、河村さんの作曲「深愛」でスタート。玉置浩二さんの「メロデー」や名曲「蘇州夜曲」など多彩な歌を披露しました。また、今春、曲づくりのためイタリアを訪れた思い出をトークしながら、向うの歌をイタリア語で歌い上げ、観客から大きな拍手が送られました。後半、新曲「きらめきの向こう」など16曲を甘い豊かな歌唱力で熱唱。最後に、アンコールに代えて、坂本九さんの「心の瞳」などを歌いフィナーレを飾りました。

三国地区更正保護女性会 50周年で記念大会 9/28

9/28



大嶋会長から感謝状を受ける財田山田専務理事

三国地区更正保護女性会の創立50周年記念大会(財団協賛)が9月28日、三国町社会福祉センターで、会員ら約150人が参加して盛大に開かれました。

財団の助成支援に感謝状

三国町

大会に先立ち、三味線と大正琴の合同演奏が披露され、記念大会を盛り上げました。式典では、大嶋トモ子会長が「県内トップを切っ掛けとして更正保護女性会を誕生させた誇りと、半世紀にわたる青少年の非行防止など明るい社会づくり運動を踏まえ、今後更に地域社会に貢献していただく」とあいさつ。

同会長から同会の発展に寄与した人たちの表彰が行われ、当財団に対して、感謝状が授与されました。これは、財団が、平成15年度より3年間、同会のボランティア活動に助成制度を通して支援を続けてきたことが評価されたものです。

海・山 福井 ロックフェスティバル05 に協賛 10/16

本県ゆかりのミュージシャンが集まる「海・山・音楽 福井ロックフェスティバル05」(FM福井主催、当財団協賛)が10月16日夜、福井市の響のホールで開催されました。今年で3回目となった今回の企画にはメジャーデビューを果たしたザ・ルーズドッグスなど6組が出演。パワフルなバンドサウンドと熱演に、会場は熱気に包まれました。第1陣は、ボーカル、ギター、ベース、ドラムの4人組「COOL JOKE」のステージで幕開け、新曲「世界は君の手の中に、光は時の中に」などを披露。序盤からロックンロールの強力な発信に会場を盛り上げました。その後、

6組のバンド熱演、会場最高潮

福井市

本県出身の4人組ザ・ルーズドッグスやEARPHONES、せきすい(5人組)など個性的なバンドが、次々と舞台上より、熱狂のステージを展開し、会場に詰めかけた約250人のファンを沸かせました。



4人組のロックショー「COOL JOKE」の熱演

第9回 福祉演芸大会を開催

腹話術・千田さん・歌手・林田さん出演



「マツケンサンバ」を歌う人形「ひかるちゃん」と千田やすしさん

財団では、人に優しいふれあい活動の一環として10月18日から20日までの3日間、県内老人福祉施設(別表のとおり)を巡回、第9回福祉演芸大会を開きました。今回は、腹話術師の千田やすしさんと歌手の林田麻友子さん(日本コロムビア専属)をゲストに招きました。各会場とも開演30分前から車椅子の

入所者や最寄りのお年寄りらが詰めかけ、3日間で延5000人が参加、楽しいふれあいの輪を深めました。公演の前半は、千田さんが、ベッカム・ヘアスタイルで登場。ピンク色のハンカチを消すマジックなどを披露、腹話術の本番劇では、人形「ひかるちゃん」のコミディカルな挨拶や脱線した対話で爆笑を誘い、最後に衣装替えして、マツケンサンバを歌い、踊るなど園楽を

10/20 (木)		10/19 (水)		10/18 (火)	
14	10	14	10	14	10
和上苑	ガーデンハイソング	ほのほの苑	愛寿苑	湖岳の郷	深山荘
坂南市	春江町	南越前町	福井市	美浜町	敦賀市

プリマドンナ 林康子と吉田浩之夢の共演 10/27

世界のプリマドンナとして活躍する林康子さんと敦賀市出身で、今や日本を代表するオペラ歌手吉田浩之さんが共演するコンサート(県文化振興事業団主催、当財団協賛)が10月27日夜、福井市の県立音楽堂小ホールで開催されました。コンサートは、前半は日本歌曲を中心に、後半はオペラの名曲を独唱。最後に2人が共演する形で進められ、2人のすばらしい美声に、会場に集った約400人のファンを魅了しました。開幕、割れんばかりの拍手に迎えられた林さんは、村上尊志さんのピアノ伴奏で、山田耕作作曲の「からたちの花」など6曲をたかたかと独唱。吉田さんは、名曲「荒城の月」「宵待草」など

日本とオペラの熱唱で魅了

福井市



客席で一人ひとりと握手を交わし、演歌を歌う林田さん

浴びました。後半は、林田さんが「瀧来笠」「箱根八里の半次郎」などなつメロや、オリジナル曲「男・天野屋利兵衛」を熱唱。途中から、客席に入り、一人ひとりと握手を交し、ソーラン節など手拍子を打ちながら合唱。最後に、千田さんも加わり、「青い山脈」など会場と一緒にフィナーレを飾りました。



歌劇で名場面を熱唱する林康子さんと吉田浩之さん

「ラ・ボエーム」から、2人が胸を組んででかける息の合った共演で、愛の二重奏を披露し、フィナーレを飾りました。



フィナーレに手をとり挨拶する2人とピアノの村上尊志さん(左)

を伸びやかに歌い上げ、絶賛の拍手が会場を包みました。後段のステージでは、林さんは、ブッチー二作・歌劇「トスカ」などからの名場面を歌い上げ、存在感溢れる熱唱が続きしました。また、吉田さんは、オペラ「椿姫」からなど情熱的な歌声を響かせ、最後に、ブッチー二作

読者アンケートのご回答のまとめ **げんでん 福井第22号**

本誌第22号のアンケートに総数31通のご回答をいただき、ありがとうございました。
その結果を下表にとおりまとめました。今後も、皆様のご意見をうけたまわり、本誌の充実に向けてまいりますので、ご協力をお願い申し上げます。



Q：第22号で良かった記事は？

- 「第20回国民文化祭ふくい2005」準備本格化 15名
- 福井市自然史博物館訪問 6名
- ふるさと福井人物シリーズ 由利公正～小楠・龍馬とのかかわり～(中) 14名
- 平成16年度風花随筆文学賞・財団賞 作品紹介 12名
- 伝統芸能シリーズ 糸崎の仏舞 16名
- 福井の文学碑 豊原碑 (日下部太郎・W.Eグリフィス) 5名
- 敦賀市立博物館誌上ギャラリー/16 三祭園(祇園祭礼園) 4名
- 情報ファイル 11名

本誌への主なご意見

- 私達の身近に伝統芸能が生きている(王の舞・仏舞)。今後も積極的に取り上げてください。
- 「由利公正」シリーズ「五か条の御誓文」草稿を景が購入したこともあり、大変興味深く、次号に期待しています。
- 福井の伝統文化や歴史を知る情報誌として継続発行を。
- 福井県の城跡と歴史上の人物とのかかわりなど特集して下さい。
- 風花随筆文学賞の作品がとてよかった。今後も掲載して下さい。

財団イベント INFORMATION

日英小学生絵画交流展	敦賀市内の5小学校とイギリス・セラフィールド地区の4小学校の児童絵画を展示	12/3(土)～18(日)	敦賀原子力館
		12/20(火)～27(火)	げんでんふれあいギャラリー(本町2-9-16)
第8回ふるさと大賞写真コンテスト入賞作品展	(敦賀会場)	平成18年 1/31(火)～2/12(日)	同上
	(福井会場)	平成18年 2/17(金)～22(水)	ショッピングシティ「ベル」(福井市)
平成17年度県新人演奏会(県文化振興事業団主催・財団協賛)	公開オーディション	平成18年 2/26(日)	ハーモニーホールふくい(福井市)
	新人演奏会	平成18年 3/12(日)	同上

次号の予告 (第24号)

- 第25回近畿高等学校総合文化祭をみる
11月12日～20日本県で開かれた高校生の文化イベントを写真を中心に追ってみます。
- ふるさと福井人物シリーズ「杉田玄白」～日本近代医学の先駆者～
郷土史家永江秀雄氏に執筆をお願いします。
- 第8回ふるさと大賞写真コンテスト入賞作品紹介
「ふるさとの祭りと譜」をテーマで公募した入賞作品を誌上展示



第25回近畿高等学校総合文化祭総合開会式＝11月12日、県立音楽堂

